

2015年(平成27年)4月29日(金) NO 97号

K-PURO NEWS

【事業所】

◆	社名	株式会社 ケイプロ	http://www.k-puro.co.jp
◆	商号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆	本社	埼玉県蕨市中央 1-7-1 シティタワー蕨	TEL 048-446-9445
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

【業務内容】



機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
防犯カメラ事業	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

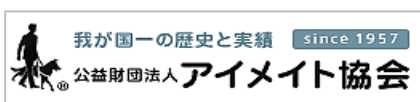


【加盟団体】



RID2770	川口モーニングロータリークラブ	http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/
NPO 法人	さいたま起業家協議会	http://www.saitama-kk.org/
公益社団法人	千葉東法人会	http://www.chibahojin.jp/
一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	http://www.rinri-chiba.org/
公益財団法人	モラロジー研究所	http://www.moralogy.jp/

【応援団体・企業】



ごあいさつ

熊本地震にて亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。



人の心は傷つきやすいものです。
例えば、挨拶をしたのに返事が返ってこなかった・・・
こんな些細な出来事でも、私たちの心は傷つきます。
そうすると、物事を悪い方向に考えがちです。
しかし「体調が悪かったり考え事をしていたりして、挨拶が耳に入らなかった」ということもあるかもしれません。

「あの人はこうだから」「今回もこうに決まっている」との思いにとらわれると、心の距離はますます開いていきます。

「思い込み」とらわれず、やわらかな心で、よりよい人間関係を築いていきたいものです。

代表取締役 木戸 良樹

今月の良い話

「思い込みと思いやり」

「至急の対応をお願いします」

会社員の藤原さんが外出先で連絡を受けたのは、午後二時を過ぎてからのことでした。その日、藤原さんは夕方まで得意先を回る予定でしたが、職場から「今日中に発送する書類に不備が見つかった」と連絡が入ったのです。書類を修正して夕方までに郵便局へ持ち込むことを考えると時間がありません。藤原さんは慌てて会社に戻ることにしました。

道を急ぐ藤原さんの目に、前方をゆっくりと歩く中年男性の姿が映りました。狭い路地の隙間を体を滑り込ませるようにして男性を追い越しました。そのまま駅へ向かい、慌ただしく電車に乗り込みます。会社の最寄駅で電車を降りると、多くの人が行き交う改札付近で、数人の高校生が立ち話をしていました。“こんな邪魔になるところで・・・” 藤原さんは口には出さないまでも、内心イライラしながらその輪を避けて先を急ぎました。会社に戻った藤原さんは、早速書類の修正に取りかかります。発送もなんとか時間内に済ませることができました。“とにかく間に合ってよかった”



「ただいまー。・・・やれやれ」
居間に入ると妻の幸子さんとお母さんが談笑しているところでした。
「お帰りなさい。・・・なんだかほっとしたような顔ね。何かあったの？」幸子さんが尋ねます。
「いやいや、どうということもないんだけど・・・」
藤原さんはそう言って、昼間の出来事について話しました。

「それはお疲れさま。自分が急いでいるときって、周りの人が邪魔に思えたり、乗っている電車のスピードすら遅く感じたりすることがあるのよね」

「そうなんだよな」すると、隣でその会話を聞いていたお母さんがクスクスと笑いました。

「何？母さん」

「あなた、そのとき、前を歩いていた男の人や立ち話をしていた子たちに腹を立てたでしょう。急いでいる人もいるんだからどちらかに寄って道を空けてくれればいいのに、とかマナーの悪い高校生だな、って」「うん、まあ・・・」

「お父さんとよく似てる。自分は正しい、ほかの人が間違っているって思い込むところはそっくり。考えてみると、イライラの原因って、そのときの自分の都合や“こうあるべきだ”という思い込みだったりすることが結構あるわ。私もメールを送ったとき、いつまで経っても返信が来ないとやきもきするけど、相手も忙しかったりして、すぐに返信できない事情があるかもしれないのよね」

話を聞きながら、藤原さんが改めて振り返ってみると、確かに「自分の思うようになっていない他人の言動」に接したときは、相手の事情に思いをめぐらす余裕もなく、一方的にイライラを募らせていることが多いような気もしました。

勝手な思い込みによって不平や不満を抱いたり、他人を責めたりすれば、人間関係が損なわれ、自分にも相手にもますます大きな不快感をもたらす結果になりかねません。

反対に相手に喜んでもらえたなら、自分自身も喜びを得ることができます。優しく温かい心で他人の幸福を願い、他人のために喜びをもって尽くす人の周囲には、よい人間関係が築かれています。

今月の良い話 「名物になるような良い物をつくりなさい」



「わしはな、各地を旅行するとその土地の名物を買ってくる。それを恩人とか子供たち(門人)、その他の人たちにお分け申し上げる。それで親孝行するんだ」とおっしゃいました。続いて、「小山さん、物をつくるにも売るにも、名物になるような良い物をつくりなさい。最高級品ではなく、大衆向きの中級以上でその中でも上物をつくりなさい。それに薄利多売はつまらぬ。骨折り損のくたびれ儲けだから、安く売ってはいけません。厚利小売(利潤の多いものを儲けて売ることを)をするのです。そして、「説明をすること」が大切です。

説明は、新聞やラジオ、印刷物ではなく、口から口へと伝わるようにすること。なぜかという、こちらが道徳的で道徳を実行している品性の善い者であれば、相手に感じさせる何ものかがあるはずだからです。

- 一、良い物をつくること
- 一、薄利多売でなく厚利小売
- 一、説明をすること

この三つを実行すれば三年で運命が開きます」とおっしゃったわけです。
～昭和12年谷川温泉において～

まず第一の「良い物をつくること」とは、品質面において優れた製品をつくるというだけでなく、その土地の名物、つまり評判となるような商品づくりを意味しています。例えばお菓子であれば、味の良さや見た目の美しさなどに加えて、素材や原材料の選定において「環境にマイナスの影響を与えない」「人体に害を及ぼさない」などの配慮がなければなりません。こうした原材料の仕入れに加えて、加工工程における衛生上の問題など、どれだけお客様の目に見えないところでお客様のために努力するか、ということが名物となるための重要な要素となります。

第二の「薄利多売でなく厚利小売」に関連して、よく個人商店などで耳にするのですが、それまで高級品路線のお店が低価格路線に変更し、材料費を下げ、価格も大幅に下げた結果、お客が増え、売上が増加にもかかわらず、かえって忙し過ぎて健康を害したとか、利益が減少したという話です。まさに「骨折り損のくたびれ儲け」ですから、数多く売ろうと努力する前にまず、どこにも負けない、独自性のある商品づくりに注力することに心がけたいものです。

第三の「説明をすること」について、「説明は、新聞やラジオ、印刷物ではなく、口から口へと伝わるようにすること」と述べています。口コミは、マーケティングにおいて無視できないほど大きな効果があります。一般に口コミは、製品が高価であればあるほど、また購買者にとって製品購入の重要度が増すにつれ、その効果はより大きくなるといわれています。とくに命にかかわる医者への選択、住宅の購入などを例にとれば一目瞭然でしょう。また今日、SNSの普及により、評判が広がる範囲も拡大しています。くれぐれも悪い評判が口コミで広がらないようにしたいものです。

事件ファイル NO97 大地震の備え

■ 発生直後

- 1 まず水をためる(トイレ用に)
- 2 屋内でも靴をはく(足裏の傷は致命傷)
- 3 家を離れる際はブレーカーを落とす(停電復旧から通電火災の発生例が多い)
- 4 連絡はメールや災害用伝言ダイヤルで(171・web171)

地震発生後に必要と思われる品リスト



■ 発生前準備

- 5 ペットボトル等の飲料水、缶詰・インスタントラーメンの食料品(飲料水は1人 3L が目安)、調味料(塩)
- 6 スプーン、フォーク
- 7 カセットコンロ、予備ボンベ
- 8 電池式の携帯ラジオ、懐中電灯、予備電池
- 9 充電式電池
- 10 ビニールシート、新聞紙、生理用品

プロ太の小話集 NO97 『協力』

試合の途中で、コーチが幼い選手の一人に向かって言った。

「協力というのがどういうことか、分かってるかい？ チームって、何か分かるかい？」

小さな男の子はうんとうなずいた。

「大事なことは僕たちがチームとしてみんな一緒に勝つことだって、分かっているかい？」

小さな男の子はまたこくりとうなずいた。

「じゃあ、ストライクのコールが出たり、一塁でアウトになったりしたとき、審判と言い争ったり、悪態をついたりしちゃあいけない。今言ったこと、みんな分かるかい？」

男の子はまたうなずいた。

「ようし」と、コーチ。

「じゃあ、向こうに行って、お母さんにそのことを説明してきなさい」



//////
今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？

弊社の社是の2つ目に「道徳経済一体型思想」があります。

モラロジー道徳科学の提唱者・廣池千九郎博士の教えを取り入れさせていただきました。

道徳と経済は車の両輪であり、両方が一体でないと上手く回っていかないことを示します。

道徳心のない会社は一時は成功することもあるが、決して長続きはしないということです。

その他にも、「三方よしの経営」「品性資本の経営」「人づくりの経営」等々、機会があればご紹介したいと思います。

注:プロ太とは、写真のK-PURO番犬です (体長 10メートル・体重 1トン・無敵無敗)